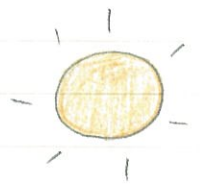




国際社会で働くこと、

国際人としての将来に向けて



5/7



国際社会で働くこと、
国際人としての将来に向けて

Date _____ No. _____

⑥ 目次

I 導入

II 通説

III 自分の意見

IV 考察

V 参考文献

I 導入、II 通説

< 国際社会で働くということ >

◎ 進むグローバル化

国際社会とは国と国とが作るコミュニティであり、かつては世界を分ける単位は国家であった。今では国の中に住む人々、地方自治体、民間団体、企業、学校、NGOなどが主体になりつつあり、国家間の垣根は低くなっている。そのため、世界は国別の脅威の他に、国を越えたグローバルな脅威にさらされており、共通の課題を抱えている。

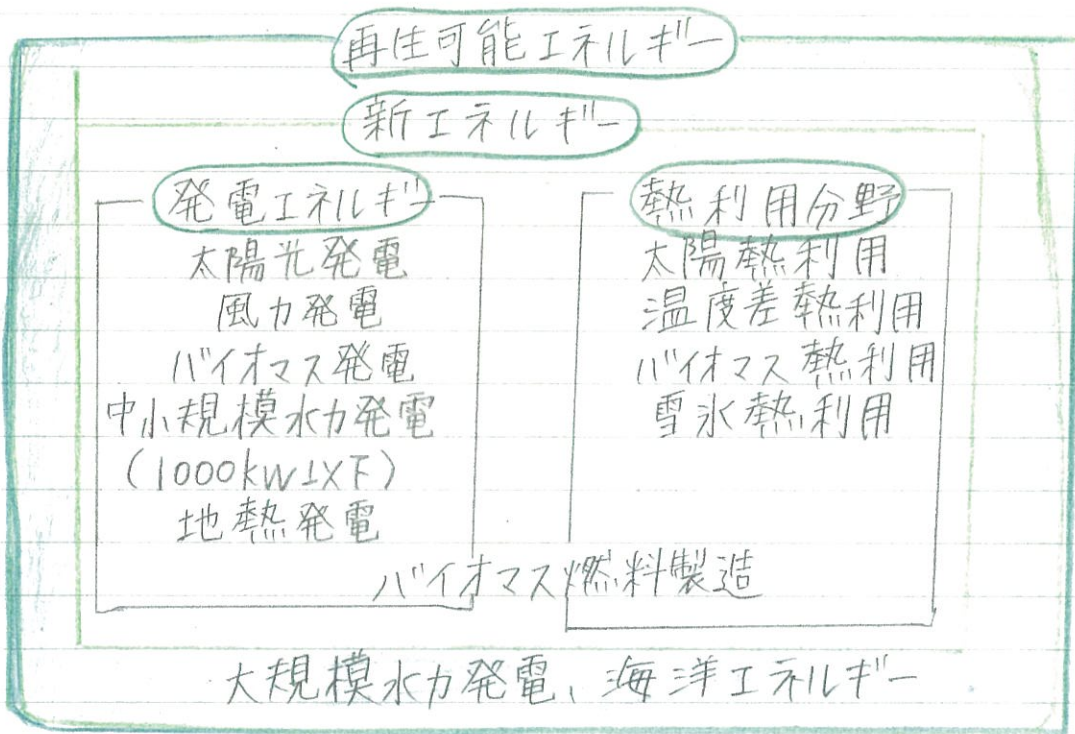
グローバル化の進行によって「勝ち組」「負け組」ができていく。グローバル化をうまく利用しているルクセンブルク、ノルウェー、スイスはサービス産業で世界の先頭を行き、国民1人あたりの所得1位から3位までを占めている。アジアの国々は、日本を除けば「勝ち組」と言えるが、世界には必ずしも「勝ち組」ではない貧しい国が存在する。これらの国の人々はグローバル化を恨み、自分たちの文化、伝統の殻に閉じこもり、安心感を得ようとしているが、グローバル化に抵抗することは無理であり、無駄である。日本は製造業ですぐれた科学技術やもの創りの力を生みつつあり、そのため企業はより広く安価な労働力を求めて、アジア、中東、アフリカへ進出しようとしている。結果として日本語だけでは仕事ができなくなっている。楽天やユニクロのように社内で使う言語を英語にする企業も出ている。

< 新エネルギー >

○ 新エネルギーとは、風力、太陽光、地熱（バッテリー発電に限る）、中水力（100kW以下）、バイオマスなど自然環境から得られ、再生可能なエネルギーのうち、その普及のために支援を必要とするものです。新エネルギーは国産エネルギーであること、二酸化炭素（CO₂）の排出量が少ないことから、エネルギー自給率の向上と地球温暖化問題への対応に優れているといった利点がありますが、投資額が高く、風力、太陽光などは自然条件に左右され出力が不安定であるほか、設置できる地点も限られているなどの欠点もあります。

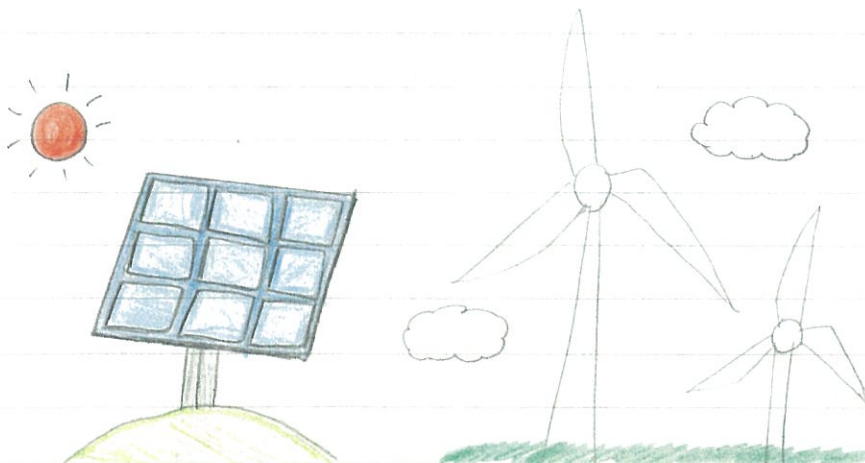
○新エネルギーの定義

※新エネルギーとは、日本の法律で技術的に実用化段階に達しつつあるが、経済性の面での制約から普及が十分でないもので石油代替エネルギーの導入を図るために特に必要なもの」と定義されている。現在、太陽光発電や風力発電、バイオマスなど10種類が指定されている。



○新エネルギーの評価

自然のエネルギーを利用した太陽光発電、風力発電は無尽蔵でクリーンという大きなメリットをもちますが、反面、エネルギー密度が低く、まとまった電力を得るには広大な面積を要すること、天候など自然条件に左右され、安定性に欠けているなどの問題点も抱えています。



○ 新エネルギーの評価と課題

	太陽光発電	風力発電	廃棄物発電
<u>メリット</u>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 枯渇する心配がない ○ 発電時にCO₂等を出さない ○ 需要地に近いため送電ロスがない ○ 需要の多い昼間に発電 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 枯渇する心配がない ○ 発電時にCO₂等を出さない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発電に伴う追加的なCO₂の発生がない ○ 新エネルギーの中では連続的に得られる安定電源
<u>デメリット</u>	<ul style="list-style-type: none"> ○ エネルギー密度が低く、火力、原子力と同じ電力量を得ようとすると広大な面積が必要 ○ 夜間は発電できず、さらに雨、曇りの日は、発電出力が低下し、不安定 ○ 設備にかかるコストが高い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ エネルギー密度が低く、火力、原子力と同じ電力量を得ようとすると広大な面積が必要 ○ 風向き、風速に時間的、季節的変動があり、発電が不安定 ○ 風車の回転時に騒音が発生 ○ 風況の良い地点が発生 ○ 設備にかかるコストが高い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発電効率が低い ○ ダイオキシンの排出抑制対策や燃焼灰の減量化等の更なる環境負荷低減が必要
<u>必要な敷地面積</u>	100万kW級原子力発電所1基分を代替する場合 約58km ² 山手線の面積とほぼ同じ	約214km ² 山手線の面積の約3.4倍	
<u>設備利用率</u>	12%	20%	

○ 外国の人が日本で働くことについて

～背景～

「グローバル化・少子化」
国内市場の縮小、
人手不足

外国人にとって魅力的で
活躍できる場が重要課題

○ 外国人の意見

- ・フレキシビリティの無さ、変化に対する低抗感 (大人数)
- ・意見を言っても無視される (大人数)
- ・排除、冷遇 (大人数)
- ・福利厚生、昇進などにおける差別
- ・言語の隔たり
- ・女性差別
- ・フィードバックがない、など...

III 自分の意見

- 今、日本はグローバル化が進み、昔の日本と比べ、生活が大きく変わってきているんだなと思いました。そして将来働く時には、外国人がもっと増えて、英語が話せないと働きづらくなる社会になるのではないかと、思いました。新エネルギーは、太陽光発電、風力発電など自然のエネルギーを利用して、メリットが大きいと思っていたのですが、安定性に欠けているなどの欠点も抱えていると知り、驚きました。

IV 考察

- 少子高齢化が進んでいるので、今社会は人手不足なのでいいかと考えました。グローバル化が進んでいるけど、日本の昔からの伝統や文化を守るために、イベントなどを開催してもっと多くの人口に日本の素晴らしさをしてもらえたらな、と思いました。

✓ 参考文献

- 「国際社会で働くということ」 <https://www.gpmu.ac.jp>
- 「新エネルギー ~発電のしくみ~」 <https://www.tepc.or.jp>
- 「日本で働くことについての調査」 <https://japi0808.sakura.ne.jp>